

おぎわらモーニング

政治を、分かりやすく・身近に・楽しく読める！

Plain, Familiar, Pleasant with Politics!

第二号 2013年 9月1日 発行

発行 おぎわら隆宏後援会事務局
 電話 0467-61-1870
 FAX 0467-61-1871
 住所 〒248-0006 鎌倉市小町
 1-4-24 鎌倉起業 プラザ3階

◆ CONTENTS ◆
 ＊コラム
 ＊うさのすけの
 湘南青春物語
 ＊至言探訪
 ＊後援会メンバー募集



おぎわら たかひろ
荻原 隆宏

昭和四十五年一月生。ドイツ・フランクフルト・イギリス・アルジェリア・日本の五カ国で育つ。立教英国学院卒、早稲田大学第一文学部卒、会社員、衆議院秘書、横浜学生会議員二期五年を務め、現在、民主党神奈川県第四区総支部（横浜市栄区／鎌倉市／逗子市／葉山町）にて活動中！



日本の多様性と地方分権 ①

日本の八百万（やおろず）の神は、我が国がもともと多元・多様性に富む国であると示唆します。

今、日本には多くの宗教があります。特定のものというより、多くの宗教を受け入れた結果、時に無節操と揶揄されることもあり、私は、多元性に富む日本独特の寛容性によって、神道、仏教、キリスト教等が入り混じり形成された宗教観ではないかと思っています。様々な神様を多重に信仰しても、価値観を並行して眺めながら、私達は人生の規範としての宗教観を今も失っていません。

初詣、バレンタイン、盆踊り、クリスマス、全部大事なイベントです。

苦しい時には神頼みをし、お地蔵様にも手を合わせます。

言葉もそうです。私達は、コミュニケーションの基礎である言語表記にしても、漢字を大陸から取り入れ、しかも違う時代に輸入された複数の発音を、単に上書きするのではなく古い発音も残しながら同時並行して使い続け、今もって独自の言語として操っています。

漢字に音読みと訓読みがあり、音読みはさらに呉音、漢音、唐音、その他の読みに分かれます。それぞれ、違う時代に伝えられ、国内で変化した発音だったりしますが、結果として同じ漢字に三、四種類の読み方があったり、あるいは、訓読みも、同じ漢字に複数あったり、同じ読み方でいくつもの漢字があてはめられるものもあります。

行は「おこなう」「いく」。

「なく」は、泣く、鳴く、啼く、です。そしてそれに加えて、ひらがなとカタカナがあります。

さらに、現在は英語等から来るカタカナ単語も日本語として標準搭載されています。

ペットボトル、プラスチック、パン、コップ、アイスクリーム、テレビ、デート……等、日本語に変換しにくいカタカナ単語がたくさんあります。他言語が日本語に同化している。すこいことです。

物事を他国から吸収し、我が物に同化するほど親和する。結果、日本の文化は多様多彩なものに仕上がっていく。

食文化もそうです。日本料理の基本である醤油も大陸から、稲作も大陸から。着る物も、今は欧米の服。しかし、どんなに他国の文化が流入しても、いわゆる「和的なもの」は、失われません。いまは、生活そのものが大きく変わり、激しく文化も様子を变え始めていますが、それでも、和的な建築や着物、茶道や武道などに対しての愛着や、守るべき気持ちは、多くの日本人が共有出来る感覚だと思えます。

多様性は強みである

このように、宗教に無頓着、言葉の変化が多いこと、否定的な意見もありますが、こういっ

た多様性に富む柔軟さは、むしろ日本の強みではないかと思えます。

この強みをもっと生かしても良い。日本は、時代の流れのなかで、様々な変容を遂げる国であり、変容を遂げたとしても、全てを脱ぎ捨て完全にリセットすることなく、古いものも新しいものも同時並行で保ち続ける国です。

今、日本にある代表的産業である自動車にせよ、ITにせよ、他国の発明品です。政治もそうです。今私達が使っている議会制民主主義は、欧米の発明品です。

これら外国の事物を日本流に変容して価値を高めてきた。それが個性に繋がり、他国に見られない我が国の長所、原動力になってきました。世界の知識・技術・文化を吸収して、多様な産業や文化を育てることは、日本の国力の源泉です。

どんなものにも神が宿ると考える感覚から、どんな価値観にも一理を認める力が、導き出される。何事も否定することなく、全て受け入れる。ここに人間の強さも生まれる。どんどん受け入れて、結果として、文化はさらに多様な姿を見せることとなります。私は、日本にもともと見られる多元性、特に



うさのすけの湘南青春物語 by おぎわら

言語文化に見られるような、結果的に多様性に富む事となった吸収力に、日本の底力を感じます。

この多様性を開花させるには、どのような政策が適切でしょうか。私は、国民の個性、地域の個性を存分に発揮できる場と機会が、様々な場面で設定される必要があると思います。そのひとつが、地方分権の推進による、多様な個性・地域性の醸成と発露です。

湛山の「強固なる地方自治」

昭和三十一年に首相となった石橋湛山が、その回想録でこのように述べています。

“もし日本に強固な地方自治が行われていたら、中央における軍閥が国政をほしいままにし、国家を今日の悲境に陥らしめるがごときことはなかったであろう。何となれば、強固なる地方自治が行われるということは、国民が強固なる自主独立の精神を持つ事を意味し、したがって権力の専制を許さないからである。”

“日本の地方自治は、いかにして上級政府から補助金を多く出してもらったかを考究する機関にしか過ぎない、地方自治体の長は上級政府に顔のきくものほど良しとせられた。こういう地方自治は、もとより自治の名に値しない。”

湛山の回想録が刊行されたのは首相になる以前、昭和二十六年のことです。また石橋湛山は、大正十三年から昭和三年まで、鎌倉町会議員でもありました。

私は、この石橋湛山の自治に対する洞察は十分現代に通用すると思います。

日本の地方自治は残念ながら現在も不十分です。それは、第二次世界大戦を経て導入された新しい地方自治においても、地方議会や首長の政策議論が見え難い意味において、地方政治の存在感が希薄であり、このことは我が国全体として、民主主義がなかなか育たないと言われる大きな原因にもなっていると思います。

地方自治の意義は、①自己決定②中央の監視

③多様性の確保の3つにあります。

なかでも、第二次世界大戦の反省から言えば、中央政府を監視するという地方の役割については、もつと我が国で議論されて良いと思います。自己決定の方法も常に進化する必要があります。

中央官僚や元国会議員が知事・市町村長になる話は今もよくある話です。湛山が述べる強固なる地方自治とは、「中央に顔が利いてわがままが通せる」という感覚の自治ではなく、どのような価値観であれ、国政に頼らずとも、自己の良心と責任に依って社会を保とうとする個性ある地域を作り上げることだったと思います。

地方分権は多様性を具現する

中央にこびへつらう自治は自治に値しません。中央権力の専制を許さないという自治本来の力を発揮出来ないからです。自己の考えに立ち、自主独立の生活を確立することは、地域各々の個性を發揮して、多様な地方の集合体を作り出す事につながり、一極集中を廃し、新たな富の分配を生み出します。

北海道から沖縄まで、それぞれの風土伝統を持続させながら、自己決定に基づく責任を伴う地方政治を展開する。それぞれの基準を保ち、価値観を保ち、日本全土で互いの個性を認め合い共生していく。

我が国が本来強く持っている、多様な価値観を同時並行で保ち続ける、多様性に富む国づくりとしての地方分権に、私は大きな国益の芽を見出すのです。

地方自治をもつと盛んに興すことで、日本の国力を高めていく。地方自治が盛んになれば、国民と政治の距離はぐっと近くなる。身近なる政治は、大きな政治の礎です。政治は国政だけではありません。むしろ足下の地方政治をいかに民主的に駆動出来るかで、日本の未来が決まってくると思っています。

次号では、地方分権についても少し深く掘り下げてみようと思います。

——いつても、代、いせ、無我無心。

(荻原隆宏)

至言探訪

上に悪(にく)むところ、以て下を使うこと母(な)く、下に悪むところ、以て上に事(つか)うこと母かれ。前に悪むところ、以て後(し)りえに先だつこと母く、後に悪むところ、以て前に従うこと母かれ。右に悪むところ、以て左に交わること母く、左に悪むところ、以て右に交わること母かれ。此れをこれ掣矩の道と謂う。

大学 第六章 一

目上の人について厭(いや)だと思つことは、そんなやり方で目下の者を使つてはならないし、目下の者について厭だと思つことは、そんなやり方で目上の人に仕えてはならない。前を行く人について良くないと思つことは、そんなやり方で後から来る人の前に立つてはいけなし、後の人について良くないと思つことは、そんなやり方で前の人の後についてはいけなし。右にいる人について厭だと思つことは、そんなやり方で左の人と交わつてはならないし、左にいる人について厭だと思つことは、そんなやり方で右の人に交わつてはならない。こういうのを、「掣矩(けつこ)の道」という。

参考：「大学」岩波文庫 金谷治訳注

矩(く)は、さしがね・定規の意味で、掣矩(けつこ)とは、定規を手にとつてはかる、という意味ださつです。身近で確実なものを基準にして、ひろくものごとを推しはかるのが「掣矩の道」。これは、身近な政治から大きな政治を考へる地方分権そのものと思ひました。厭だ、と思つ判断は自分の心が行くものですから、この判断が正しくないと、全部間違えてしまう。まず自分の心を正して判断を正しくしなさい、天下国家はまず我が身をよく修めることから、と説く、「大学」の肝の部分がよく伝わります。

(荻原隆宏)

後援会メンバーを募集しています！

おぎわら隆宏後援会は、一緒に日本の未来を考えるメンバーを求めています！勉強会の開催や、街頭活動まで、幅広く政治活動を体験してみませんか？詳しくは下記まで、お気軽にお問い合わせください！

おぎわら隆宏事務所
〒248-0006 鎌倉市小町 1-4-24 鎌倉起業プラザ3階
TEL : 0467-61-1870 FAX : 0467-61-1871

✉ ogi@ogiwara-takahiro.com

街頭活動を、一緒にやってみませんか？
日本のあるべき未来を共に語りませんか？
政治の知識を、増やしてみませんか？

